

## 全国 ESD・SDGs 自治体会議から考える高畠町の取り組み

山形県高畠町 教育長 丸山 信也

高畠町と立教大学は、以前より有機農業を中心に様々な交流を官民レベルで進めており、そのご縁もあり、今年度も「全国 ESD・SDGs 自治体会議」に参加させていただきました。

昨年度に引き続き 2 回目の参加となった今回は、ESD に加え SDGs を推進する自治体などの事例報告もあり、全国各地の先進的で特色のある取り組みを学ばせていただく貴重な機会となりました。

はじめに本町の ESD に関連する取り組みを少し紹介させていただきます。

本町においては、1973 年（昭和 48 年）より全国に先駆けて有機農業の取り組みが始まりました。この有機農業の「自然との共生」や「いのち」のつながりを大切にするという先人の思いを受け継ぎ、持続可能なまちづくりを進めるため、学校教育においても「総合的な学習の時間」などを活用しながら食や環境という視点で、ESD に関連する様々な取り組みを行っております。

小学校では、地域の畑や田んぼの先生に学びながら、児童たちが様々な農作物を生産し、地区の文化祭や敬老会で販売するなどの取り組みを行っております。例えば、和田小学校では地元の上和田有機米生産組合から指導を受け、田植え、稲刈り、天日干しのくい掛けを手作業で行い、無農薬の米を栽培しております。そして 2002 年からは、地域への感謝の気持ちを伝えようと、地区の一人暮らしの高齢者に心を込めて育てた有機栽培米を贈呈するという活動を継続的に行っております。

中学校では「自分の力で地域をつなぐ」ということを目的に、地域のためにできることを模索し、実践するプログラムに取り組んでおります。これは、生徒たちが自ら企画して、自分たちで栽培し収穫した農産物を修学旅行先の東京都内で販売し、町の PR を行うというものです。

子どもたちはこれらの取り組みを通じて大きく成長し、何よりも地域に対する愛着や誇りを持つことにつながっていると感じております。

人口減少や少子高齢化の問題など、地方自治体を取り巻く課題を解決するための切り口の 1 つとして SDGs の取り組みが全国的に広がっております。そして、ESD は SDGs のエンジンとなる大変重要な取り組みであると言われております。

本町におきましても人口減少や少子高齢化はたいへん大きな課題であります。これらの課題を克服していくためにも、前述した ESD に関わる取り組みを更に推進し、SDGs を活

用したまちづくりを進めて行く必要があると感じており、「たかはた未来創生総合戦略」では、地域コミュニティと学校との連携による ESD を活用した人材育成を掲げ、今年度からスタートした「第 6 次高島町総合計画」では SDGs を意識した持続可能なまちづくりを進めていくとしております。

しかしながら、SDGs や ESD の認知度や理解度は、まだまだ深まっていないというのが現状です。まずは行政、教育現場、地域など各分野のつながりをつくり、共に学びあい、行動するというところから取り組みを広げていければと思っております。

全国 ESD・SDGs 自治体会議は、自分たちの取り組みを再認識することができ、他自治体の事例を知ることによって更に新しい行動につなげるためのヒントが見つかる貴重な場であると感じております。このつながりを大切に、今後も様々な地域と交流し、お互いに学びあいながら持続可能なまちづくりを行っていきたいと考えております。